

# モジュール授業を活用した小学校高学年の英語教育の実践 「読むこと」「書くこと」の指導を中心に

高橋美由紀\* 山内優佳\*\* 柳善和\*\*\*

\*愛知教育大学

\*\*広島文化学園大学

\*\*\*名古屋学院大学

## Practice of English Education at Elementary School Upper Grades Using Module Lessons Focusing on Teaching “Reading” and “Writing”

Miyuki TAKAHASHI\*, Yuka YAMAUCHI\*\* and Yoshikazu YANAGI \*\*\*

\* *Department of Graduate School of Practitioners in Education, Aichi University of Education,  
Kariya 448-8542, Japan*

\*\* *Hiroshima Bunka Gakuen University*

\*\*\* *Nagoya Gakuin University*

### 1. 研究の背景と目的

新学習指導要領において、小学校外国語教育は中学年の外国語活動で「聞くこと」「話すこと」を中心とした活動を通して、コミュニケーションの素地を養うことを目標に、週1時間（1時間＝45分）導入される。一方、高学年では、コミュニケーションの基礎を養うことを目標に、「聞くこと」「話すこと」「読むこと」「書くこと」を、総合的・系統的に扱うとともに、中学校への円滑な接続を図るために、教科として週2時間（モジュールを含む）導入される。

モジュール活動については、「次期学習指導要領改訂に向けた小学校の英語教育に関する取組」で、強化地域拠点校は、効果があったことを以下のように報告している（文部科学省 2016:9）。

- (1)モジュール活動の実施により、英語を聞くことに対する関心・意欲が高まった。
- (2)モジュール（Fun Time）で「文字を読んだり書いたり」することに取り組み、自分の話す英語をより理解して話すことができるようになったことで、既習の表現を活用したり歌詞をヒントにしたりして会話の幅が広がった。
- (3)短時間学習を行うことで、英語に慣れ親しむ機会が増えた。その効果として「話す」「聞く」力が付いてきた。特に「聞く」力が伸び、ALTの英語の指示にも戸惑うことが少なくなった。

モジュール学習（10分～15分）の例として、新学習指導要領の解説では、高学年の外国語教育において、外国語学習の特質を踏まえ、場面設定をした上で、そこで使われる語句や基本的な表現を繰り返し聞いたり話したりする活動や、文字を読んだり書いたりする活動などが提示されている（文部科学省 2017a :62-3）。

また、高学年の外国語教育は、「中学年における外国語活動で音声や基本的な表現に慣れ親しみ、外国語学習への動機付けを高めた上で、高学年から発達の段階に応じて段階的に「読むこと」「書くこと」を加え、これまでの課題に対応するため、英語の文字や単語などの認識、日本語と英語の音声の違いやそれぞれの特徴への気付き、語順の違い等の文構造への気付きなど、言語能力向上の観点から言葉の仕組みの理解などを促す指導が求められる（文部科学省 2017b :12）。これらのことから、筆者らは、小学校5年生の児童に対してモジュール授業の実践、特にアルファベットの文字学習から「読むこと」「書くこと」に範囲を広げた実践研究を行った。なお、本稿では、(1)上記の実践内容を報告し、(2)実践期間の前後で測定した児童の英語学習に対する態度及び英語能力の比較の結果を述べる。

### 2. 実践研究

本実践研究は以下の方法で実施した。

#### (1)研究協力者

A 県の公立小学校の教師、及び、5年生1組21名（男子9名・女子12名）、2組20名（男子9名・女子11

名)の計41名であった。なお、この児童数は、事前調査(Pre)と事後調査(Post)の2回の調査の両方とも受験したものである。

児童らは、外国語活動を1・2年生は年間15時間、3年生からは年間35時間学習してきている。また、モジュール学習として、1年生の時から毎日(5日間)9分間、市教育委員会が作成した英語のDVDを視聴している。このDVDは、英語母語話者の教員(ALT)や市内の児童らが画面に登場する。DVDを視聴している児童らは、画面に登場しているALTや児童と一緒にチャンツや歌、会話表現の発話に参加できる。また、画面に登場するALTの質問に、教室にいる児童らが答えるというように、画面を見ながら児童らは教室でコミュニケーションを図ることができる。

(2)調査実施時期：2016年9月～2017年2月

(3)調査内容：

- ①質問紙、及び、英語テスト問題(A)(Appendix)と(B)を作成した(紙面の関係上問題(B)は省略)。なお、(A)と(B)は同様の問題形式で語彙が異なる。テストは、以下の観点で測定ができる内容とした。
  - ・英語を聞いてそれが表している絵を選ぶ。
  - ・英語を聞いてその綴りの単語を選ぶ。
  - ・英語を見てそれが表している絵を選ぶ。
  - ・アルファベット順に並べる。

②2016年9月に、質問紙調査及び英語能力テスト(A)を実施した。

③2017年2月に、質問紙調査及び英語能力テスト(B)を実施した。

(4)文字指導で使用した教材

指導で使用した教材は、『絵じてん』本体と、絵の中にある語彙の一部とアルファベットの語彙の一部がシールになっている「シール帳」がついている。そして、ステップ1とステップ2で構成されている。

ステップ1では、語彙を表す絵が、「コミュニケーションの場面ごとや分野ごと」に描かれている(図1)。児童は、シールを貼るのを楽しみながら、音声を中心にした以下の活動を行なうことができる。

①CDを聞いて、ワークに出てくる右にある語彙を確認する。【聞く活動】

②絵の中から、英語の文字が書かれているグレーの影絵に適切なシールを貼って紙面を完成させる。

【文字と絵を結びつけ、文字を認識する活動】

③絵を見ながら、CDを聞いて語彙を発話する。

【発話する活動】

④語彙を覚えたら、その語彙を使用した会話表現を使って、会話を行うことができる。

【会話をする活動】

図1：『くもんのシールでワーク英語絵じてん』pp.14-15



なお、「コミュニケーションの場面と分野」は、以下の20であり、各々がレッスンナンバーになっている。

1. My room 2. Kitchen 3. Town 4. Classroom  
5. Store 6. Fruit and Vegetables 7. Living Room  
8. Zoo 9. Restaurant 10. Park 11. Sports and Music  
Instruments 12. Jobs 13. Seasons and Weather 14. My  
Clothes 15. Face and Body 16. Family 17. A Year  
18. A Week 19. Colors 20. Numbers

各レッスンでは、場面の絵の右側に10個の語彙がアルファベット順に色分けして示されているので、児童は場面の絵を見ながら、語彙をシール帳で容易に探すことができる。

ステップ2では、グレーの長方形(図2)の上に適した語彙のシールを、シール帳から探して、『絵辞書』を完成させる。そして、CDを聞いて文字を見ながら真似して発話する。なお、グレーの長方形部分は、語彙の文字が薄く見えるので、児童はシールの文字と見比べながら、正確に貼ることを心がけることができる。さらに、語彙が現れている「ステップ1」のレッスンの1から20の番号が語彙の横に掲載されている。児童は文字を見て分からない時には、学習したコミュニケーション場面を振り返ることができる(図3)。

図2:『くもんのシールでワーク英語絵じてん』p.48



図3:『くもんのシールでワーク英語絵じてん シール帳』p.9



#### (5)指導内容

2016年9月から2017年2月まで、モジュール活動を利用して、学級担任による文字指導を20回行った。1回の指導は、10～15分であった。

教師は、教材の各レッスンを、基本的には以下の手順で授業を進めた。

- ①CDで単語をリピートして聞く。
- ②CDの音声をかけながらシールを貼る。(CD3回)

③CDの音声を聞いて、その語彙を表している絵を指し示す。

④会話文を聞き、次に教師と一緒に発話する。

⑤疑問文、語彙の練習をしてから、会話の例文に、適切な語彙をあてはめる。

⑥教師と児童全員で会話をした後にペアで交流する。

表1は、担任が指導の様子を記載したものである。(紙面の関係上抜粋)

表1: 児童のレッスン内容と様子

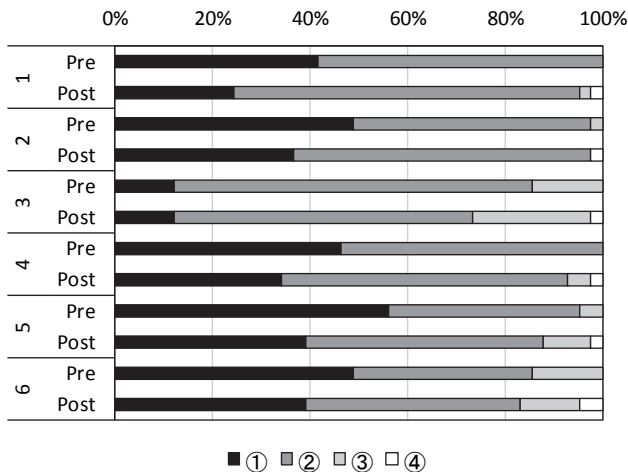
回数	月日 と時間	レッスン内容	児童の様子
2	9月20日 10分	・L2 Kitchen CDに沿って、単語を聞き、シールを貼った。What do you have for breakfast? の問いに対して、I have ～に単語を入れて練習をした。	・楽しそうにシールを貼っていた。 What do you have for breakfast? は、授業で慣れ親しんでいた表現なので、話しやすそうだった。
9	11月4日 9分	・L9 Restaurant 「単語を聞き、シールを貼り、例文の練習をして、友達と会話」を流れて取り組んだ。友達と会話した回数をテキストに書き込むように伝えた。	・比較的すぐできた。 What do you want to eat? の会話表現では、スプーンは食べられないから当てはまらないね、という話をした。

### 3. 実践研究の結果

#### 【調査1: 英語学習に対する態度】

はじめに、児童の英語学習に対する態度の変化を報告する。英語学習に対する変化を測定する質問紙は、2クラス同じ内容のものを、文字指導をモジュール学習で行なう前と後の2回実施した。質問は7問あり、Q1からQ6までは「①とても好き」～「④とても嫌い」や、「①とても楽しい」～「④全然楽しくない」の4件法で答える形式であった。回答の結果は図4に示すとおりである。

英語学習に対する態度について尋ねた問いでは、いずれの質問項目に対しても73～100%の児童が「①とても好き、とても楽しい」もしくは「②好き、楽しい」と答えており、彼らは全般的に英語学習に対する意欲は高く、おおむね英語学習には好意的であることが分かった。しかし、PreとPostを比較すると、「①とても好き、とても楽しい」と回答する割合が低くなっている。また、事前調査時には見られなかった「④とても嫌い、全然楽しくない」への回答がわずかながら存在し、意欲には低下が見られる。

図4：児童の英語学習に対する態度  
(学習前上段 Pre・学習後下段 Post)

■ ① ■ ② ■ ③ □ ④

注：N=41。項目は以下のとおりである。

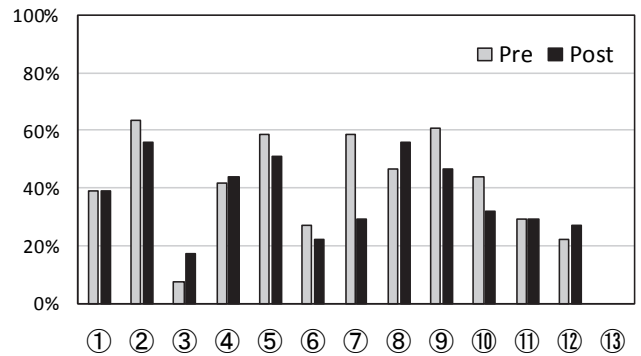
- Q1「英語を学ぶことは好きですか？」  
 Q2「外国人の先生やともだちと英語で話すことは楽しいですか？」  
 Q3「英語でみんなの前で話したり、発表したりすることは楽しいですか？」  
 Q4「外国人の先生の話など、英語を聞くことは楽しいですか？」  
 Q5「アルファベットの文字やかんたんな英語の文字を読むことは楽しいですか？」  
 Q6「アルファベットの文字やかんたんな英語の文字を書くことは楽しいですか？」

「話すこと」については、Q2で尋ねた「やりとり」には大半の児童が「①②楽しい」と回答しているが、Q3で尋ねた「発表」については、4分の1の児童が「④楽しくない」と回答している。本研究が主眼としている「読むこと」(Q5)および「書くこと」(Q6)については、全体的な傾向と同様で、80%以上の児童が①②の楽しいと回答しているものの、一部の児童には意欲の低下がみられた。

Q7においては、「これからどんなことを英語で習いたいですか？」という質問で、以下の項目のうち該当するものを複数選択で回答を促した。

図5で示すように、Preでは半数以上の児童が「②外国人の先生やともだちと英語で話すこと」や、「⑤catやapple等のかんたんな文字を読むこと」、「⑦英語の絵本やかんたんな英語の文を読むこと」、「⑨catやapple等のかんたんな文字を書くこと」がについて、これから学習したいと考えていた。一方、Postでは、「②外国人の先生やともだちと英語で話すこと」、「⑤catやapple等のかんたんな文字を読むこと」、「⑧アルファベットの文字を書くこと」を選択する児童が50%を超えていた。本研究の主眼が読むことと書くことであることから、調査項目は読むことや書くことへ

図5：これから英語で学習したい内容



注：項目は下記のとおりである。

- ①外国人の先生の話や、放送などの英語を聞くこと  
 ②外国人の先生やともだちと英語で話すこと  
 ③英語で、みんなの前で話したり発表したりすること  
 ④アルファベットの文字を読むこと  
 ⑤cat や apple 等のかんたんな文字を読むこと  
 ⑥英語の絵本などを先生に読んでもらうこと  
 ⑦英語の絵本やかんたんな英語の文を読むこと  
 ⑧アルファベットの文字を書くこと  
 ⑨cat や apple 等のかんたんな文字を書くこと  
 ⑩自分の身のまわりにある英語の文字を書き写すこと  
 ⑪英語の歌を歌うこと  
 ⑫英語の劇(げき)をすること  
 ⑬その他 ※他に習いたいことを書いてください。

の記述が多く占めるが、外国人の先生やともだちと英語で話すことは、児童らにとって興味関心が高い項目であることがわかる。

続いて、PreとPostを比較して特に変化が大きかった項目を挙げる。回答数が減少した項目は、「⑦英語の絵本やかんたんな英語の文を読むこと」である。Preでは59%の児童がこれから学習したいと答えていた一方で、Postには29%と、29ポイントの減少となった。続いて、「⑨catやapple等のかんたんな文字を書くこと」が61%から46%へ15ポイント、「⑩自分の身のまわりにある英語の文字を書き写すこと」が44%から32%へ12ポイント減少していた。反対に回答数が増えた項目は、「③英語で、みんなの前で話したり発表したりすること」(7%から17%)、「⑧アルファベットの文字を書くこと」(46%から56%)で、それぞれ10ポイントの増加であった。

#### 【調査2：英語能力】

英語能力を測定するテストは、英語を聞いたり読んだりして答える問題で構成した。出題と解答の形式は表2のとおりである。Q13およびQ14は辞書の役割に気づく問題である。Q13は辞書を使用せずにアルファ



ベットを辞書順に並び替える問題、Q14 は辞書を用いて該当する語を探す問題であった。

表 2：出題形式および解答

	Q9	Q10	Q11	Q12	Q13	Q14
出題	音声	音声	文字	文字	文字	文字
解答	絵	文字	絵	日本語	辞書順	字引き

注：Q12 と Q13 には絵を提示する問題も含まれる。

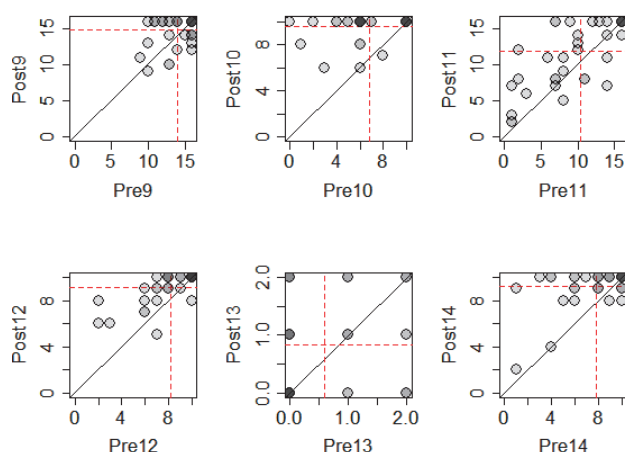
テスト問題はカウンターバランスを考慮し、5 年 1 組では、Pre は問題 (A) を、Post は問題 (B) を用いた。また、5 年 2 組では、Pre は問題 (B) を、Post は問題 (A) を用いた。

表 3 には、上記の Q9 から Q14 の 6 つの問題について、正確に回答できた数を、Pre と Post と比較して掲載した。なお、Q は大問の番号、 $k$  は Q の中で回答する語彙（問題項目）の数、% は正答率を示す。図 6 は児童ら全体の得点傾向を散布図により示す。

表 3：英語テスト測定検査 9 から 14 の結果

Q	$k$	Pre			Post		
		$M$	$SD$	(%)	$M$	$SD$	(%)
9	16	14.05	2.17	88%	14.78	1.97	92%
10	10	6.78	2.64	68%	9.59	1.06	96%
11	16	10.39	5.22	65%	11.90	4.51	74%
12	10	8.15	2.12	81%	9.17	1.30	92%
13	2	0.59	0.80	29%	0.83	0.82	41%
14	10	7.80	2.56	78%	9.24	1.57	92%

図 6：Pre および Post 段階における各問に対する得点



注：縦線は Pre 段階、横線は Post 段階の平均値を表す。プロットの色が濃い部分は、同じ得点の児童が複数存在していることを表す。9～14 の数字は大問番号である。

これらの問題について、問題 (Q9～14) × 時間 (Pre、Post) の、2 要因の分散分析を行なった。その結果、交

互作用は  $F(5,240) = 5.60, p < 0.1, \eta^2 = .12$  で、統計的に有意であった。そこで単純主効果の検定を行ったところ、Q9 は  $F(1,40) = 3.46, p = .07$ 、Q10 は  $F(1,40) = 47.36, p < .01$ 、Q11 は  $F(1,40) = 7.68, p < .01$ 、Q12 は  $F(1,40) = 19.34, p < .01$ 、Q14 は  $F(1,40) = 16.64, p < .01$  で、統計的に有意な時間の効果があつた一方で、Q13 は  $F(1,40) = 2.24, p = .14$  で統計的に有意な差は見られなかった。

記述統計では全ての問題について得点の上昇が見られ、散布図からも得点が向上していることがわかり、統計的にも Q13 以外で得点に伸びが確認できた。しかしながら、Q9 については Pre テスト段階でほとんどの児童が 15 点中 10 点以上を得点できており、Pre テストの段階で天井効果がみられる。また、Q10 以降の文字を活用した活動については、Post テストで得点が増しているが、特に、Q10、Q12、Q14 では正答率が 90%を超えており、こちらも天井効果が生じているといえる。

#### 4. 考察

まず第 1 に、英語学習に対する態度(図 4)については、80%を超える児童が回答項目の「①とても好き、とても楽しい」と「②好き・楽しい」のいずれかを選んでいいる。これは Pre と Post でほとんど差が見られない。ただし、「①とても好き、とても楽しい」だけを見ると、Post では減少が見られる。このことから、児童はこれまで英語学習に対して楽しく取り組んでいたことが認識できる。「聞くこと」「話すこと(やりとり)」については、小学 1 年生の時から慣れ親しんでいる活動であること、担任主導で、子どもたちの興味・関心の高い話題について、「コミュニケーションの必然性のある場面」を設定して、英語の表現をスキットや Small Talk で指導していることなどが、児童の英語嫌いを作らない要因であると思われる。

「①とても好き、とても楽しい」が Post で減少していることは、これまであまり取り組んでこなかった「読むこと」「書くこと」「辞書使用」といった学習を行い、またテストを実施したことで、その楽しさだけでなく難しさも自覚したことが原因ではないかと考えられるがさらに検証が必要である。

なお、「3. みんなの前で話したり、発表したりすること」の項目は他に比べて好意的な回答が少なかったが、これは児童が高学年で思春期にさしかかっているなどの精神的な要因であると考えられる。

第 2 に、これから英語で学習したい内容(図 5)について、全般的に「読むこと」「書くこと」への意識が高いことがわかる。Pre と Post を比較すると、項目によって違いがあるが、Post で下がっている項目が多い。「読むこと」に関する項目(④アルファベットの文字を読むこと、⑤cat や apple 等のかんたんな文字を読むこと、⑦英語の絵本やかんたんな文字を書くこと)では④

で Post がやや増加しているものの、⑤や⑦では減少しており、特に⑦では大幅な減少が見られる。同様に、書くことに関する項目(⑧アルファベットの文字を書くこと、⑨cat や apple 等のかんたんな文字を書くこと、⑩自分の身のまわりにある英語の文字を書き写すこと)でも、⑧は増加しているものの、⑨と⑩では減少している。このような変化が今回の実践の影響であるとする、「読むこと」「書くこと」の今後の指導の在り方を検討する必要がある。特に、語彙や文を読んだり書いたりする項目では回答数が減少し、アルファベットを書くことで 10 ポイントながら増加が見られたことから、書くことの段階的な導入の必要性が窺える。

第 3 に、英語能力の測定結果では、Q9 の「英語を聞いてそれが表す語彙を絵から選ぶ」活動は、Pre の段階で既に多くの児童ができていた。これは、授業で教師が使用している「絵の下に文字が書いてある絵カード」を児童が見て無意識のうちに絵と一緒に文字も学んでいることがわかる。絵は、児童にとって未知の語彙であっても、その語彙を理解する手がかりとなるため効果的である。『絵じてん』を活用した学習においても、同様で、限られた語彙しか知らない児童にとって、コミュニケーションの場面で使われている様々な絵(語彙)を見ることで、その語彙を推測することができる。また、Q11 と Q12 の「英語を聞いてその綴りの語彙を選ぶ活動」や「英語を見てそれが表す英語を選ぶ活動(その語の日本語を書く)」は、これまで音声中心であった外国語活動であるため、児童が慣れ親しんでいる語彙であっても、文字から語彙を選ぶ活動は絵があってもできていなかった。

Pre と Post の結果からは、Q10, Q11, Q12, Q14 の文字を活用した活動については有意差が認められ、学習効果があったと考えられる。Q9 については、最初からできている児童が多かったことで天井効果が発生し有意差を生ずるに至らなかったと考えられる。Q13 のアルファベット順に並べ換える問題は、Pre と Post で有意差は出ていない。しかし、Pre では 29%の正解しか得られていないが、Post では 41%の正解が得られており、これまで「アルファベット順」ということを意識していた児童は少ないと思われる。辞書の導入とりわけ、アルファベット順に並べることや辞書の役割を理解していた児童はほとんどいなかったと思われるが、Post では、約半数の児童が正解をした。

以上のことから、今回の「読むこと」「書くこと」の指導を中心としたモジュール授業の実践は、児童の英語能力を向上させることに貢献していると考えられる。

## 5. 今後の課題

今後の課題として考えられる第 1 点目は、中学年を協力者としたデータ収集である。新学習指導要領では、中学年に「外国語活動」が導入され、そこでは「聞く

こと」「話すこと」を中心とするとしながらも、アルファベットの文字指導が含まれている。その際に、今回実施した辞書学習を含めた実践を行い、データを収集して、高学年での教科としての英語の指導への接続をどのように図るかを検討したい。

第 2 に、今回のデータでは、事後調査で児童の英語学習意欲が低下していたが、その原因を児童への面接など別の方法で調査することを検討したい。一般的に、現在の小学校高学年で行われている「外国語活動」の後に中学校での英語学習が始まると、英語学習に対する「楽しさ」を感じられない生徒の割合が増えるといわれている。今回の事後調査での事例とどのように関係しているかも今後の課題となろう。

第 3 に、今回は辞書を教材として導入することで、児童の英語学習への態度や英語能力の変化を考察した。しかしながら、特に小学生に辞書を使わせることに対する評価方法はまだ手探りの段階である。この点についても今後検討を重ねたい。

## 註

本研究は「小・中学校を通した英語教育における流暢性に関わる言語能力育成シラバス開発」(H25～H29 年度科学研究費助成金基盤研究(C)課題番号 25370659、「CLIL を活用した小学校英語教育の海外教育実践指導カリキュラム開発」(H28～H30 年度科学研究費助成金基盤研究(C)課題番号 16K02958、「読むこと・書くこと」の主体的協働的な学びにおける初等英語カリキュラム開発と評価」(H29～H31) 課題番号 17K03008、の成果の一部である。また、本論文で報告する内容は、第 17 回小学校英語教育学会にて発表した「モジュール授業を活用した小学校高学年の実践-「読むこと・書くこと」の指導を中心に-」(2017 年 7 月 30 日神戸市外国語大学)における発表・質疑を踏まえて、さらに分析・解釈や考察を進めたものである。

謝辞：

本研究にご協力頂いた A 県の M 小学校の先生方、及び、児童の皆様に感謝申し上げます。

## 参考文献

- 文部科学省 (2016) 「小学校における外国語教育の充実に向けた取組(カリキュラム、教材、指導体制の強化)」平成 28 年 2 月 22 日教育課程部会小学校部会資料 5.
- 文部科学省 (2017 a) 『小学校学習指導要領解説 総則編』
- 文部科学省 (2017 b) 『小学校学習指導要領解説 外国語編』
- 高橋美由紀(編集協力)(2016)『くもんのシールでワーク英語絵じてん』東京：くもん出版.

(2017 年 11 月 29 日受理)

(Appendix)

みなさんへ (児童用)

これは、テストではありません。みなさんがどのような英語を知っているのかを調べるものです。


( ) 年 ( ) 組 ( ) 番 氏名 ( ) 男 ・ 女

みなさんの英語に対する気持ちや、英語学習について、あてはまるものを○でかこんでください。

【1 から 7 まで本文中に記載、8 省略】

ここからは、英語を聞いたり読んだりして答える問題です。




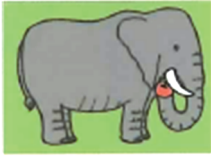












9. 英語を聞いて、その意味を表す絵に①から⑯までの番号を書いてください。

			
( )	( )	( )	( )
			
( )	( )	( )	( )
			
( )	( )	( )	( )
			
( )	( )	( )	( )

10. 英語を聞いて、その文字に①から⑩までの番号を書いてください。

chocolate ( ) eight ( ) father ( ) lion ( ) milk ( )  
mouth ( ) pumpkin ( ) swimming ( ) umbrella ( ) white ( )

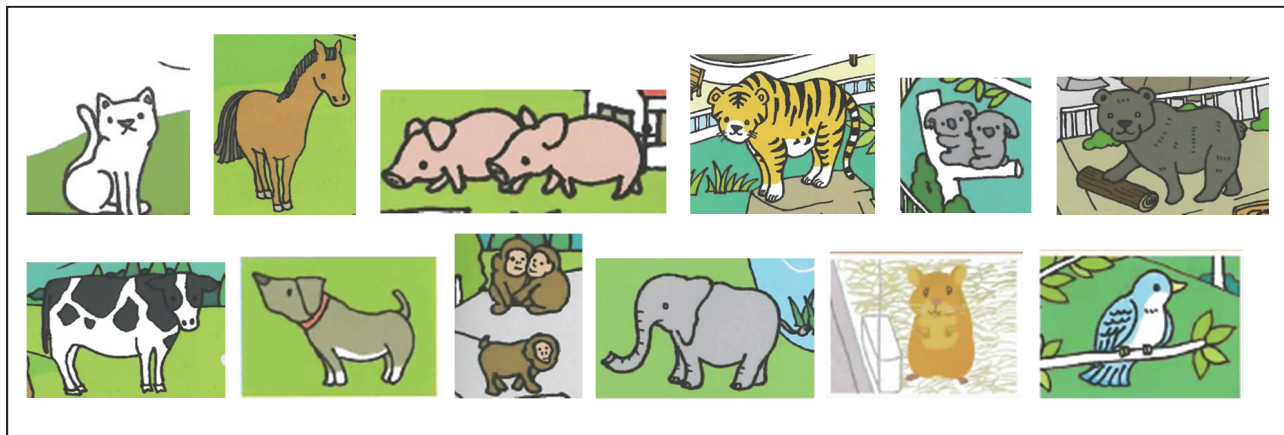
11. ①～⑯の英語に合う絵を(ア)～(タ)から選び、( )にその記号を書きましょう。

(ア) 	(イ) 	(ウ) 	(エ) 
(オ) 	① strawberry ( ) ② Wednesday ( ) ③ elephant ( ) ④ nurse ( ) ⑤ police ( ) ⑥ king ( ) ⑦ sandwiches ( ) ⑧ cake ( ) ⑨ carrot ( ) ⑩ star ( ) ⑪ station ( ) ⑫ flower ( ) ⑬ piano ( ) ⑭ December ( ) ⑮ finger ( ) ⑯ rabbit ( )		(カ) 
( キ ) 			( ク ) 
( ケ ) 			( コ ) 
(サ) 			( シ ) 
(ス) 			(セ) 
(ソ) 			(タ) 





12. ①から⑩の英語は、何の動物でしょうか？ 下の絵から選んで、日本語で書きましょう

- ①hamster ( ) ②dog ( ) ③monkey ( ) ④bear ( )  
 ⑤horse ( ) ⑥tiger ( ) ⑦cat ( ) ⑧pig ( )  
 ⑨cow ( ) ⑩koala ( )



13. 英語の辞書の順番（アルファベット順）に並べましょう。

(1)絵を参考にしながら英語をアルファベットの順番に並べて、順序よく、( )の中に記号（ア～コ）を書きましょう。※『英語絵じてん』は使いません。

(ア)  <b>grapes</b> ぶどう	(イ)  <b>tomato</b> トマト	(ウ)  <b>corn</b> とうもろこし	(エ)  <b>potato</b> じゃがいも	(オ)  <b>apple</b> りんご
(カ)  <b>melon</b> メロン	(キ)  <b>cherry</b> さくらんぼ	(ク)  <b>lemon</b> レモン	(ケ)  <b>orange</b> オレンジ	(コ)  <b>banana</b> バナナ

- ① ( ) ② ( ) ③ ( ) ④ ( ) ⑤ ( )  
 ⑥ ( ) ⑦ ( ) ⑧ ( ) ⑨ ( ) ⑩ ( )

(2)英語を辞書の順番に並べて、順序よく、( )の中に英語を書き写しましょう。

※『英語絵じてん』は使いません。

notebook egg TV water juice

blackboard table desk window butter

- ① ( ) ② ( ) ③ ( ) ④ ( ) ⑤ ( )  
 ⑥ ( ) ⑦ ( ) ⑧ ( ) ⑨ ( ) ⑩ ( )

14. 下の英語は、『英語絵じてん』ステップ2の何ページ目にのっていますか。

ページ番号を書きましょう。※『英語絵じてん』を使います。

- ①plane ( ページ) ②red ( ページ) ③April ( ページ) ④cup ( ページ)  
 ⑤map ( ページ) ⑥chair ( ページ) ⑦sport ( ページ)  
 ⑧August ( ページ) ⑨pilot ( ページ) ⑩book ( ページ)